

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 19  
2023・12・18

1 連邦食料・農業省：環境に優しくかつ乳牛に適した給餌のための提携研究  
ーチッソとリンを削減した乳牛の飼料生産ー (2023・12・5)

ニック 政務官が提携プロジェクト NPassend 860 000 ユーロ（約1億2900万円）の決定通知書を手渡した。気候・環境保護は、家畜給餌の問題でもある。連邦食料・農業省は、ボン大学とノルトラインーヴェストファーレン州農業会議所との提携プロジェクトで、特に乳牛飼育から生ずる気候に悪影響を与えるチッソとリンを削減する。



大気中のチッソとリンを減らす飼料の研究

3年間のこのプロジェクトは、実践面での重要な知見を提供する。これでもって環境に優しく、同時に乳牛に適した給餌を可能にする。

連邦食料・農業省ニック 政務官 Dr. オフィーリア ニックが、これについて述べた：”このプロジェクトは、気候の保護を見据えて家畜を飼育し、給餌する方法でもって、家畜に適した農業のために大きな役割を演ずる。我々は実践上重要な研究を奨励する。なぜならば、これは農場での家畜飼育の転換促進のために、重要な礎石であるからである。乳牛は健康でそして効率的に良好に飼育されること。その際、気候に悪影響を及ぼすチッソ、リンの排出量を減らすことを研究する。まさにここで提携プロジェクトが投入され、そして乳牛経営のための具体的な奨励技術を提供する。”

このプロジェクトは、アンモニアの大気排出量並びにチッソーリンの排出（糞尿など）の削減可能性について研究する。飼料中のチッソーリンの過剰防止を通じて、乳牛飼育の環境への影響を少なくし、そして家畜の福祉を改善する。

粗タンパクとリンの供給レベルの違いは、家畜の健康、乳牛の乳量成績への影響と栄養素（糞尿）排出、並びに気候—環境上の重要なガス放出を調査する。

## 背 景

ドイツにおいて気候を害するガスの全放出量は、2022年について7億4560万t CO<sub>2</sub>-換算量と見積もっている。この量の8.3%が農業に起因し、そのうち約半分以上（54.1%）が、反芻動物の飼育に由来している。これの排出量削減のために、例えば給餌の調整が考えられる。ここでの排出量削減のために、実践上の研究が重要となる。提携プロジェクト「気候—環境上重要なガスの排出量と栄養代謝（不必要な物を外に出す）、乳牛の生産能力、乳牛の健康上で授乳後期におけるチッソ、リン酸の削減飼料の影響」は、ボン大学とノルトライン—ヴェストファーレン州農業会議所が共同で、2024年1月から2026年12月31日までの期間で実施する。



提携プロジェクト・ボン大学



ボン大学の乳牛飼育施設



提携プロジェクト・ノルトライン—ヴェストファーレン州農業会議所（農業行政、普及を管轄）



農家を指導する普及員（右）

## 2 オズデミール大臣：COP28 で循環経済と自然的な気候保護を共同で ー建築分野に自然原料の木材投入の強化ー (2023・12・9)

連邦環境省と連邦食料・農業省は、国連気候変動枠組条約第 28 回締約国会議（COP28）で、自然的な気候保護を強化し、バイオマス（特に木材）を可能な限り原料的に用いることに取り組む。ドイツは自然的気候保護の行動プログラム（ANK）によって、自然をベースとした課題解決の取り組みをより強化することを公表した。



オズデミール大臣

連邦政府の木造建築イニシアチブは、建築分野への自然原料の木材投入を促進し、そして気候保護、原料の効率性と建築の迅速化（建築承認手続きの簡素化など）を促進している。COP28 で連邦環境大臣シュテフィ レムケと連邦食料・農業省大臣オズデミールが、2つのテーマの可能性について議論した。

連邦環境大臣シュテフィ レムケ：“我々の生存基盤を維持するところの損傷のない自然を維持するために、自然的な気候保護でもって我々の生態系システムを悪用する代わりに、より強化しなければならない。そのために、我々が自然を過剰に利用することなく、自然が我々に供給してくれる原料を循環経済の中で、有意義に活用し浪費しないことが不可欠である。例えば、木材を燃やす代わりに建造物建設を循環経済の中で活用し、気候保護に資することが中心となる。自然—気候保護のために、世界の中で限りある資源を首尾一貫して配慮すべきである。”

連邦食料・農業省大臣オズデミール：“世界が気候危機に対する闘いにおいて、我々が森を強化するとき、森は最も良い盟友である。我々は森林の将来のために、「森林—気候—パッケージ」を実施する。我々はこれでもって、抵抗力の弱い単一樹種栽培から健康な混合林栽培に、向かって行くべきである。そして我々は木材資源をもっと慎重に扱わねばならない。我々の目的は、この資源を可能な限り長期にわたって活用することである。新しい木造建造物は、巨大な炭素—蓄積者である。それは他の建造物との比較において、50%以上も温室効果ガスを大気中から削減する。我々は連邦政府の木材イニシアチブでもって、真の win-win-win の状況を創り出す。気候、森林そして農村地域における多くの経営のために。”

連邦食料・農業省のサイドイベント（主たるイベントの際に併催される）で、連邦環境省の自然をベースとした持続可能な経済と、出会うことができる。バイオマスのカスケード的な活用（訳注）は、自然的な気候保護とバイオマスの持続可能な利用と調和させることが重要である。

（訳注・カスケード的利用：使用に応じて下がる品質に応じて何度も利用すること。例えば、木材を建材や家具として利用した後、パルプや紙として利用、その後さらに発電や燃料として使い回しすること。）

このイベントで科学者、政治そして市民社会のエキスパート（その中でもヨーロッパ委員会、IPCC 一気候変動に関する政府間パネルも）が、イベントで説明した。原料的、長期的そしてカスケード的、つまりバイオマスの多段的な利用を、達成することによって、追加的な気候の利益がこのイベントで強調されている。問題解決の方法は、特にバイオを基礎とした循環経済にある。持続可能な管理から生ずるバイオマスは、例えば革新的なバイオを基礎とした断熱一包装資材に用いられることによって、生態系的にも経済的にも長所を発揮する。これを通じて生態系システムの負担を軽くする。

## 背 景

損傷のない生態系システムは、気候変動に対する闘いにおいて重要である。生態系システムの実際の気候保護の機能は、勿論我々が持続的に生産し、そして目的に限定した自然資源を利用するかにかかっている。なぜならば、既に今日この資源は全ての分野からの高い需要のために、過剰利用になっているからである。このため、特に持続可能なバイオマスの潜在力を、配慮しなければならない。つまり、社会経済的に悪影響を与えることなく、生態系システムからの農業生産システムによって引き出すことができる、持続可能なバイオマスの量を考慮しなければならない。

しかし、この引き出せるバイオマスの利用方法もまた、決定的な役割を演ずる。優先されるのは長持ちする産物の投入である。特に建築分野における木材は、今ある炭素を大気中から材料内に蓄積する。これに反してエネルギー上の利用（例えば燃焼させること）によって、CO<sub>2</sub>の形態で再び放出する。最終的に材料として利用できなくなった時のみ、エネルギー上の利用、例えば燃やすことで熱供給のために供される。



最新の IPCC 一報告は世界の温暖化防止のために、自然的な気候保護の重要性を強調している。その際、自然をベースとした CO<sub>2</sub> の受入れと蓄積を損傷のない生態系システムによって促進し、そしてこれが中心的な役割を演ずる。例えば、生態系システムの復旧または持続可能な管理（例えば、森林、湿地、河川氾濫池、海または都会の自然）等である。



2023 年 COP 28 ドバイ



干ばつで森が燃える

北ではシロクマが衰弱

南では家畜が死ぬ



気候危機に強い混交林に転換

木造建築と大工たち

木造ハウス

### 3 連邦食料・農業省：森林政策科学諮問委員会設立 10 周年記念祭を祝す —社会の各分野の要請を反映した森林政策の提言— (2023・12・4)

森林政策科学諮問委員会（WBW）が設立 10 周年記念祭を迎えた。連邦食料・農業省は 10 年前にこの委員会を設置している。連邦省のベルント・ファルケ局長は、諮問委員会に祝辞を述べた：“我々は省としてこの諮問委員会の活動について、高く評価している。この委員会は多数の意見表明と答申でもって、過去 10 年間において我々の省に重要な政策助言者としての地位を確立した。



森林政策に重要な提言を

右から 2 人目がオズデミール大臣

諮問委員会は森林政策の中心課題に対して、価値多くそして定評ある意見表明を行ってきた。いわゆる社会的な関心事の分野において、諮問委員会の活動として国民の意識向上を図ってきている。私はこの委員会の将来に向けた様々な提言を喜んでいる。”

10 周年記念祭に関するイベントで、諮問委員会に対してベルント・ファルケ局長は、最も新しい声明を發した。”諮問委員会は、ドイツにおける古くて天然に近い広葉樹の重要性を強調した。現在生物多様性の保護、気候保護そして気候変動への適応との間に緊張感が生じてきている。その中で諮問委員会は、このような広葉樹の重要性を強調し、そしてこの貴重な生態系システムに対する相反する社会的な要請を指摘した。”

この目的に関わる紛争を減らすために、そして更なる発展のために諮問委員会は、5つの行動を推奨している。諮問委員会は持続可能な森林経営のための大枠条件の策定に際して、連邦政府を助言している。この委員会は様々な科学の専門分野から、15人の代表者で構成されている。これは森林に対する社会的な要請を反映している。委員長は現在、フライブルグ大学 Dr.ユルゲン バウフス造林学教授である。各委員は連邦政府から3年間任命されている。

諮問委員会は国内—国際森林政策の基本方針と目標を検討する。また連邦政策の森林戦略実施のために、森林政策の大枠条件（骨格）とその手段のさらなる

発展のための提案を策定する。

さらに森林政策に対する社会の様々な要請との間のバランスをとることに尽力している。そして森林の持続可能なかつ多機能な管理についても、議論を重ねている。



森は国民の宝・CO2の吸収一蓄積者



森林政策諮問委員会  
ユルゲン バウフス教授



森に対する社会的に多様な要請を森林政策に反映  
家族の健康・余暇



木材建築の生産

#### 4 EU一漁業理事会：2024年度漁獲割当量を決定・ウナギに光と影

ーニシンなど各魚種が前年よりも割当量が増加ー (2023・12・12)

EU一漁業理事会は北海と北東大西洋の漁獲可能量を決定ーヨーロッパウナギの棲息現況保護のための政策を継続

EU一漁業大臣は、今週火曜日（12月12日）にブリュッセルでの長い交渉の後、北海ー北東大西洋並びに他の海域において認可された全体漁獲量について合意した。



ヨーロッパウナギ

漁業交渉の中心は（既に前年におけるように）、最も厳しい現況にあるヨーロッパウナギ保護のための政策である。

このため、現行年に関して有効な対策は 2024 年もまた、ウナギの 6 カ月間の禁漁期間と海域における遊漁（余暇観光漁業）禁止である。ドイツはバルト海について統一した禁漁期間の有効化のための交渉において、これら対策の合意を促進した。これはバルト海の隣接国と EU 一理事会の支援でもって、共同で決定する。その際、隣接国との合意が得られない場合は、2024 年 9 月 15 日から 2025 年 3 月 14 日までの間で禁漁期間が決定される。

これについて連邦食料・農業省政務官 シルビア ベンダーが説明した：

”我々はこの交渉でもって持続可能な管理のための責任と、来年のための漁業分野の安定をもたらす。これは前年の対策の効果を示しており、そして魚の現況の再構築が後に続く。我々は北海における科学的な奨励との調和において、多くの魚の漁獲割当量の水準を引き上げることができる。我々はウナギの棲息現況について、最後まで慎重な行動に尽力している。前年対比での進歩は、バルト海における統一した禁漁期間である。

ウナギがドイツの海域から順調に進んでいっても、バルト海峡で捕獲されることがあってはならない。これは今、新しい規則によって阻止される。我々はこのシラスウナギ（稚魚）捕獲の漁業拡大が、ウナギ資源への危機を高めるために厳しくみている。このため、我々は EU 一委員会に分析結果を、来年の交渉前に公表することを要請している。”

イギリス及びノルウェーとの交渉が、EU 一理事会前の適切な時期に終了出来た。このため、2024 年の始めからの漁業において、イギリスの EU 一離脱後初めて完全な計画の確実性が生ずる。ドイツに関しては、北海におけるニシン、タイセイヨウダラ、シロイトダラ、コダラ、ツノガレイの漁獲量が増えている。連邦食料・農業省はタイセイヨウダラについて、棲息現況のさらなる回復の視点でもって、予防的な問題解決による漁獲量決定のために、賛成の意見表明を行う。しかし、三か国交渉において合意された妥協は、勿論これから逸脱している。

スカゲラク海峡（訳注・デンマーク、ノルウェー、スエーデンの海峡間）とカテガット海峡（訳注・デンマークのスコットランド半島北東部トスカンジナビア半島との間にある海峡）のニシンの漁獲量制限は今も続いている。しかし、来年は西部バルト海におけるニシンの継続的な回復が、可能と見込まれる。



北東大西洋の全ての沿岸国と共同で管理しているサバについて、漁獲量に減っている。北海と北東大西洋の漁獲割当量と並んで、黒海と地中海での漁獲可能性もまた合意されている。

### 2024年のEUとドイツの漁獲割当量及び2023年との比較

魚種	EU一総漁獲割当量量 (t)	ドイツ総漁獲割当量 (t)	ドイツ総漁獲割当量 2023/2024 対比 (%)
ニシン (北海)	209 457	48 595	+ 30
シロイトダラ (北海) (スケトウダラ)	22 870	5 991	+ 18
タイセイヨウダラ (北海)	9 054	2 212	+ 12
コダラ (北海)	12 768	2 630	+ 66
ツノガレイ (北海)	67 525	5 446	+ 23
サバ (北東大西洋 西部海域)	93 464	14 268	- 9



北海の漁業に厳しい漁獲制限



ニシン



スケトウダラ



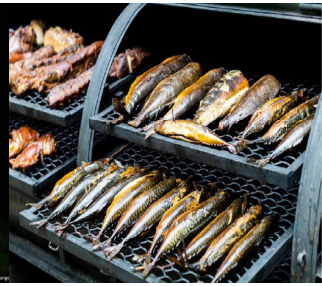
タイセイヨウダラ



コダラ



ツノガレイ



サバの塩焼き



ヨーロッパウナギ



大きく育ったウナギ



ウナギの燻製づくり

2023・12・15 訳  
 青森中央学院大学  
 地域マネジメント研究所  
 中川 一徹